

予 算 要 求 資 料

令和 7 年度 3 月補正予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名【新】民俗芸能の担い手育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 文化伝承課 伝統文化係

電話番号：058-272-8754(内3145)

E-mail：c11148@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

718 千円 (現計予算額：

0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現計予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補正予算額	718	270	0	0	0	0	0	0	448
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

民俗芸能の次世代への継承においては、少子高齢化の進行に伴う担い手の減少や後継者不足が喫緊の課題であり、後継者育成には将来の担い手となる若い世代に興味関心をもってもらふことや、学校教育との連携が重要である。また、第4次岐阜県教育振興基本計画で重点となっているふるさと教育の推進においては、文化財を用いた体験活動の一層の充実が課題となっている。

このため、伝統芸能の体験を希望する小・中学校に民俗芸能保存団体を派遣する出前講座を開催し、地域の文化財に触れる機会をつくることで、子どもたちの民俗芸能への興味関心を喚起し、「ふるさと岐阜」への誇りと愛着を一層育むとともに、将来の民俗芸能の担い手育成に繋げる。

(2) 事業内容

小・中学校の要望に対し、県内の民俗芸能保存団体（県指定無形民俗文化財保持団体）を派遣し、鑑賞、体験、練習及び発表会を実施する。

対 象：岐阜県内の小・中学校

実施校：5 校

実施回数：各校ごとに 3 回の講座を実施

（３）県負担・補助率の考え方

本県の文化財（民俗芸能）の継承のために必要な取組みとして、県の負担は妥当である。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	178	業務旅費
需用費	40	消耗品費
委託料	500	出前講座実施団体への委託料
合計	718	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
施策編３（１）地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信
- ・岐阜県文化財保存活用大綱
第２章３（３）文化財を“育てる”ために ①担い手の育成 ④学校教育、社会教育との連携
- ・第４次岐阜県教育振興基本計画
施策Ⅰ ４「ふるさと岐阜」のでの活動を通して学ぶふるさと教育の推進【重点】

（２）国・他県の状況

愛知県では、本事業と類似した事業として、あいち文化遺産保存活用推進事業「伝統文化出張講座」を実施している。【予算規模：531千円】

（３）後年度の財政負担

本県の文化財（民俗芸能）の継承のために、継続した取り組みが必要であることから、後年度においても財政負担が求められる。

（４）事業主体及びその妥当性

県内の小・中学生が地域の文化財に触れる機会をもち、民俗芸能の将来の担い手育成に繋げるため、県が主体となり学校と県重要無形民俗文化財の保存団体との連携を図っていくことに対しては妥当性がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

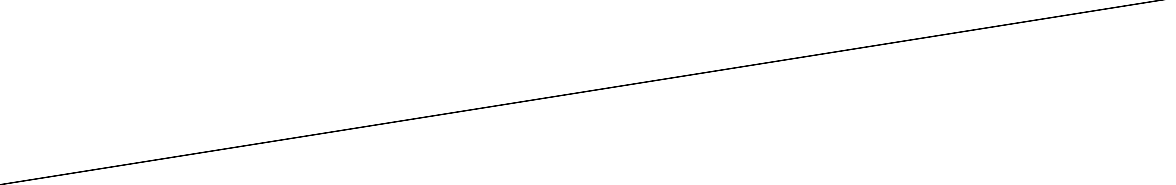
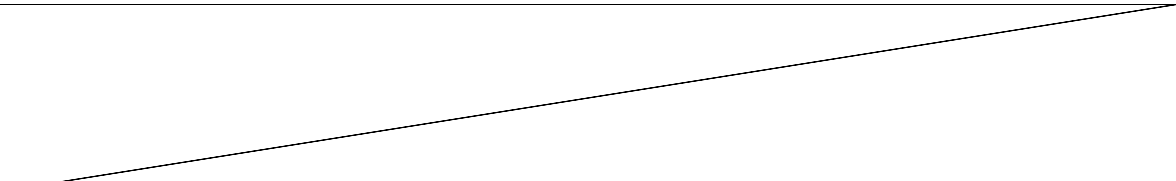
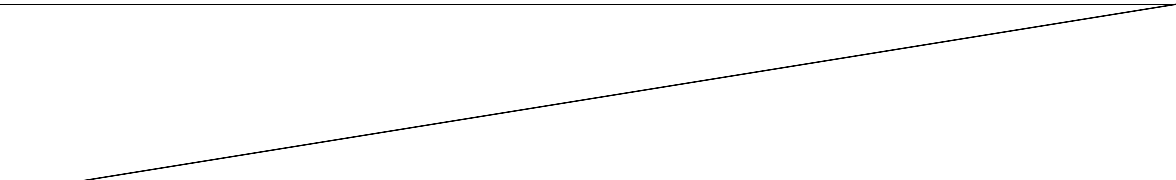
民俗芸能の保存団体が小中学校と連携することで、子どもの民俗芸能への興味関心を喚起し、民俗芸能（行事）への参加意欲の向上と将来の民俗芸能の担い手育成に繋げていく。そのために、次年度以降も本事業を継続して取り組む。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R7年度 実績	R8年度 目標	R9年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①出前講座実施 校数（累計）			5校	10校	15校	%
②						

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和7年度	 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和8年度	 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和9年度	 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価)

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

今後は、本事業の取り組みを広く周知するとともに、学校のニーズをくみ取り、保存団体との調整・連携を行っていくことで、より多くの学校に参加してもらう工夫が必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

より多くの県内の小・中学生が地域の文化財に触れる機会をもち、本県の文化財（民俗芸能）の継承のために、本事業を継続していく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など

【〇〇課】